

狂言綺語2012

■ 平成 24 年 1 月 1 日

昨年のプライマリーバランスは、完全に赤字である。これは日本国家の財政収支ではない。平成 22 年 4 月から開設した個人事業の収支報告である。事業は、講演・講師、著述、調査・研究、指導などで、自分一人の労働力しかないから、収入も極めて少ない。赤字は、銀行など外部から資金調達を得ることができないから、もっぱら家内債に頼っている。

事業支出の大半が旅費交通費と接待交際費であり、費用対効果が相当悪いのが現状である。大手の企業が相手ならば報酬は保証されるけれど、ベンチャー企業を相手にしているから費用の回収がままならぬ。技術大国と言われて久くなるが、ベンチャー企業に対する国の支援は消極的であり、その支援事業である知的資本主義なんて成立しないのかもしれない。

日本国家はデフレから脱却できずに新年を迎えた。ハッ場ダムをはじめ整備新幹線、高速道路など社会資本整備を復活したことは評価できる。当面は東日本大震災の復興、福島原発事故の除染・廃炉を始めとして地方の社会資本整備に目を向けるべきである。去年は押しせまってから消費税などの増税論議で年を越したが、日本の国力がどのような状況にあるのかを十分把握してもらいたいものである。グローバル化も当たり前のように言われているがほどほどにしなければならない。金の保有高もアメリカの 1/10 であり、これでは兌換券も発行できない。

ところで事業主として新年の事業目標を掲げないといけならしい。目標管理や成果主義は嫌いであるが、今年の事業の目標は、プライマリーバランスを零にすることである。それが達成されれば、家内債を少しずつ償還して事業主の威厳を取り戻す。内需拡大が我が事業にも急務である。社会に貢献するのはそれからである。

■ 平成 24 年 2 月 1 日

もう頑張るのは止めにしようよ。決して年老いて生きる望みを失ったわけではない。寝る暇を惜しんでグローバル化、効率化の名のもとに馬車馬のように働いたのは何だったのだろうか。夜明けを待って空売買で世界を駆け巡る人、円高を理由に生産拠点を海外に移転する製造業、海外に口座を移す富裕層などグローバル化の呪縛にはまった人々、民族や宗教間の争い、地球温暖化偽装ビジネス、そして何と言っても福島原発事故による世界的な放射能汚染など、これらが我々のこれからの活動の阻害要因となっている。

建設業は、何とか 95% が国内で事業を行い、社会資本整備、住環境、伝統・文化の継承などに確実に貢献している。建設業は GDP の約 10% を担っており、その支出の 70% は外注費であり国内のあらゆる産業やサービス業がその恩恵を受けている。しかし、その恩恵を全く理解しない国民や政治家がいるからたまったものではない。放射能汚染は海流によって北米を通じて世界に拡散する。野生動物、海洋生物類による放射能の拡散も心配である。

作家の五木寛之は、著書「下山の思想」で「民という言葉は、民主主義を含め嫌いである」という。民は、目に釘を打たれた無力の奴隷を意味し、「知らしむべからず」ということが嫌いな理由らしい。震災後の政治家や官僚の上から目線に対して「知らぬふりで生きる気持ちになれない」と、我々の心にあった何かうやむやしたわだかまりを解消してくれる。

経済とは経世済民の略であり、世の中を治め、人民を救う意味らしい。私はその日暮らしであるからどこへ逃げるわけでもなく、ただただこれからの経済社会を黙って見守るしかない。しかし、まだ前頭葉も右脳も劣化の兆候がられないので、もう少し残された時間を若者の教育に貢献するつもりでいる。ただ、名誉白人とおだてられ、日本国の伝統や文化を失うことがあってはならないことを願っている。名誉とは自由を束縛される以外の何ものでもないから。